

## 守弘仁志教授 略歴

東京都出身

1956年（昭和31年）2月4日生まれ

### 学 歴

1974年（昭和49年）3月 東京都立豊多摩高等学校卒業

1975年（昭和50年）4月 中央大学文学部入学

1979年（昭和54年）3月 同 卒業

1979年（昭和54年）4月 中央大学大学院文学研究科博士課程前期入学

1982年（昭和57年）3月 同 修了

1983年（昭和58年）4月 中央大学大学院文学研究科博士課程後期入学

1988年（昭和63年）3月 同 単位取得満期退学

### 職 歴

1982年（昭和57年）4月 化学工業日報社に記者として勤務（～1983年4月）

1983年（昭和58年）4月 織田調理師専門学校、東京デザイナー学院非常勤講師（～1988年3月）

1988年（昭和63年）4月 中央大学文学部非常勤講師（～1990年3月）

1990年（平成2年）4月 熊本短期大学（現熊本学園大学）社会科専任講師

1994年（平成6年）4月 熊本学園大学社会福祉学部専任講師

1995年（平成7年）10月 熊本学園大学助教授

2005年（平成17年）1月 同 教授

## 役 職

- 2001年（平成13年） 5 月 1 日 熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科長（～2003年12月31日）
- 2010年（平成22年） 1 月 1 日 熊本学園大学附属社会福祉研究所長（～2014年 3 月31日）
- 2015年（平成27年） 4 月 1 日 熊本学園大学附属社会福祉研究所長（～2018年 3 月31日）

## 学会及び社会活動

日本社会学会会員

社会情報学会会員

日本マスコミュニケーション学会会員

西日本社会学会会員

熊本県文化振興審議委員（2008年 4 月～2012年 3 月）

## 主要研究業績

### 編著

松下育夫、守弘仁志編著『社会理論と社会システム〔第2版〕』（学文社、2013）

松下育夫、守弘仁志編著『社会理論と社会システム』（学文社、2012）

### 共著

佐藤智雄編『地域オピニオン・リーダーの研究』（中央大学出版部、1985）

美ノ谷和成編『日常生活のマスメディア』（中央大学出版部、1989）

林茂樹編『情報意識の現在』（ソフィア、1991）

熊本短期大学編『熊本学園創立50周年記念論集』

小谷敏編『若者論を読む』（世界思想社、1993）

守弘仁志、大野哲夫、城戸秀之、新井克、岩佐淳一、小谷敏、早川洋行『情

報化の中の「私」』（福村出版、1996）

前納弘武編『離島とメディアの研究——小笠原編——』（学文社、2000）

林茂樹編『情報化と社会心理』（学文社、2001）

原田正純、花田昌宣編『水俣学講義〔第4集〕』（日本評論社、2008）

林茂樹、浅岡隆裕編『ネットワーク化・地域情報化とローカルメディア：ケーブルテレビの今後を見る』（ハーベスト社、2009）

早川洋行編『よくわかる社会学史』（ミネルヴァ書房、2011）

前納弘武、岩佐淳一、内田康人編『変わりゆくコミュニケーション薄れゆくコミュニティ：メディアと情報化の現在』（ミネルヴァ書房、2012）

## 研究論文

「地域社会における情報構造とメディアの機能——民間放送テレビにおける考察——」中央大学修士論文（1982）

「放送における地域社会——民間放送史を辿って——」中央大学大学院『論究』文学研究科編第16号（1984）

「地域のコミュニケーション研究の視角——4つの視点と背景——」中央大学大学院『研究年報』文学研究科編第16号（1985）

「戦後日本の放送制度における地域社会概念の変遷——ニューメディアの時代に向けて——」中央大学大学院『研究年報』文学研究科編第16号（1987）

「マスコミュニケーション研究における『効果』概念——強力論と限定論の比較——」中央大学大学院『研究年報』文学研究科編第18号（1989）

「若者におけるビデオ視聴——ビデオを通してみた若者の実証的分析——」

関東社会学会『年報社会学論集』第3号（1990）（岩佐淳一、新井克弥との共著）

「若者の映像館とコミュニケーション観——ビデオ調査をもとに——」熊本短期大学『熊本短大論集』第42巻3号（1991）

「疑似環境論の構造——リップマン、清水、藤竹の所説をもとに——」熊本短期大学編『熊本学園創立50周年記念論集』（1992）

「情報化社会の社会心理——情報格差論と能動的受け手論から——」熊本短

期大学『熊本短大論集』第44巻1、2、3号（1994）

「マスコミュニケーション研究における情報認知の問題——『議題設定機能』と『共通知識論』から」熊本学園大学『総合科学』第1巻1号（1994）

「若者のメディア行動とパーソナルコミュニケーション：『若者のライフスタイルとメディア行動に関する調査』から」呉大学『社会情報学研究』第1巻1号（1995）（梅津顕一郎、炭谷晃男との共著）

「若者のメディア行動とコミュニケーションの多様化」熊本学園大学『社会関係研究』第2巻2号（1996）（梅津顕一郎、炭谷晃男との共著）

「情報教育の社会心理学的考察」熊本学園大学『産業経営研究所調査研究報告書』第91号（1997）

「CATVのマルチメディア利用の可能性」熊本学園大学『社会関係研究』第4巻1号（1998）

「大東地区における地上波放送開始にともなう情報化の現状」大妻女子大学紀要——社会情報系——『社会情報学研究』7（1999）（炭谷晃男との共著）

「福祉情報ネットワークにおける地域支援——熊本バリアフリーマップ作成から——」熊本学園大学『社会関係研究』第8巻1号（2000）（炭谷晃男との共著）

「沖縄における放送制度研究ノート——6つのポイント——」熊本学園大学社会福祉研究所報31号（2003）

「沖縄における放送制度 ノート——放送局の設立と経緯を中心にして（沖縄調査研究特別寄稿）——」熊本学園大学『社会福祉研究所報』第32号（2004）

「沖縄の情報化政策——離島における情報格差は正政策を中心に（1）」熊本学園大学『社会関係研究』第14巻1号（2009）

「沖縄の情報化政策——離島における情報格差は正政策を中心に（2）」熊本学園大学『社会関係研究』第15巻1号（2010）

「ワークショップ1 若者とメディアの50年：語りの分析からみえてくるもの」『マス・コミュニケーション研究』第92巻（2018）

「水俣病公式確認60年アンケート調査結果総論」熊本学園大学水俣学研究セ

ンター『水俣学研究』第9号（中地重晴、井上ゆかり、花田昌宣、田尻雅美、斎藤靖史、田中久稔、藤本延啓との共著）

## 報告書

「オピニオン・リーダーのメディア接触」地域情報研究会編『争点をめぐるマス・メディアの対応とオピニオンリーダーの役割』放送文化基金昭和53年度後期助成報告書（1980）

「トップ・オピニオンリーダーの情報活用と影響力」地域情報研究会編『原子力船「むつ」の再母港化をめぐる利害対立とオピニオンリーダーの役割、むつ市調査1』昭和55年度文部科学省研究助成報告書（1982）

「市民およびロウアー・オピニオンリーダーのマス・メディア接触」地域情報研究会編『原子力船「むつ」の再母港化をめぐる利害対立とオピニオンリーダーの役割、むつ市調査2』昭和55年度文部科学省研究助成報告書（1982）

「テレビ視聴の時間と行動」「番組選択とチャンネル選択」『メディア行動の多様化と小笠原社会の変容（1） テレビ地上波導入以前と導入直後の状況』文部省科学研究費調査報告書、情報メディア研究会（1997）

「沖縄県南・北大東村におけるメディア利用の実態」文部省科学研究費調査報告書、放送文化基金助成報告書、高橋信三基金助成報告書（1998）

## 付 記

今回、故人の経歴及び研究業績につきましては、『社会関係研究』編集委員会の方で可能な限りにおいて調査をいたしました。なお、その際に大妻女子大学教授の小谷敏先生を初めとする多くの方々のご協力を頂きました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。なお、学会報告につきましては、残念ながら不明な部分が多く、やむなく割愛させていただいたことをここにお断り申し上げます。

『社会関係研究』編集委員会